

第4回県立あすなろの郷検討委員会の議事概要

- 日 時 平成29年3月27日（月）15:00～17:00
- 会 場 あすなろの郷管理棟研修室
- 出席者 委員9名（欠席1名），事務局，社会福祉事業団
- 結 果

1 コンセプトに基づく施設関連イメージ図等について

イメージ図については、概ね了承された。なお、地域住民との交流拠点や在宅支援サービス機能を追記すべきとの意見が出された。今後、各施設や民間連携の内容について引き続き検討していく。

2 入所者数の今後20年間の全体の傾向について

「自然減を反映しつつ、国の目標に従って地域移行等を進めるとともに、真に必要な方の新規入所を受け入れる」方向（パターン2）で、今後の入所定員等を検討していくこととなった。なお、地域移行等の国の目標については努力目標であり概ね3年ごとに見直すべき、あすなろの郷や地域の実情を踏まえてある程度幅を持たせるべきとの意見が出された。

3 医療サービスについて

重心施設から在宅対応に転換していく方向（案2）を中心に、医療人材や設備の課題を鑑みながら、検討を進めていくこととなった。

○ 議 事

(1) コンセプトに基づく施設関連イメージ図等について

- ・地域移行促進センター（仮）は他県にはない画期的なものである。
- ・利用者が地域生活可能となるような支援を進めることが、あすなろの郷の職員のモチベーション向上と人材確保につながる。
- ・高齢障害者についても新しい取り組みである。ただし、一概に年齢で区切れるものでもなく対象者については今後検討が必要である。介護保険か障害福祉サービスかの施設形態の選択も要検討。
- ・イメージ図の中に、地域住民との交流拠点や在宅支援サービス、レスパイトや親子入所なども入れ込むべきである。
- ・あすなろの郷に入る一方ではなく、双方向に出入りできる融通性が大切である。
- ・基本的な考え方等にある、利用者本人の意向の尊重はとても大切なことである。
- ・前提条件にある、家庭復帰に係る「家族の負担が生じる」については文言を削除するべき。
- ・あすなろの郷育成会で家族の声を聞いたところ、現敷地内での建て替えを望む、病院等の医療機関があることは安心、地域住民やボランティアと交流できる施設が必要、現状維持が望ましいなどの意見があった。
- ・社会的な要請や、在宅者など県民全体のことを鑑みると、あすなろの郷が現在の機能や規模を前提とした「現状維持」ということは考えにくい。

(2) 入所者数の今後20年間の全体の傾向について

- ・普通に考えるとパターン2であるはずだが、国の目標通り進むのは難しいかもしれないので、茨城の実情にあわせてある程度幅を持たせたシミュレーションも検討すべき。
- ・パターン2のとおり地域移行等を国の目標通りに進めないと、県にはなんらかの説明責任が生じてくる。目標に向かって努力はすべき。ただし、利用者等の激変緩和策や地域の受け皿の状況等を踏まえ、概ね3年ごとに目標を見直しをしていくべき。
- ・あすなろの郷から、民間グループホームや施設等への受入れは、県の支援があれば積極的に手を上げる施設はでてくるはず。県の体制全体を検討する場も必要となる。
- ・あすなろの郷の移行先だけでなく、県全体での地域の受け皿として、地域を掘り起こしながら、受け入れ先を作っていくべき。
- ・地域の受け皿整備については、ハードだけでなく、施設管理者などの人材育成にも工夫が必要であり、職員のモチベーション向上のためにも、県の指定管理制度も検討する必要がある。

(3) 医療サービスについて

- ・重心施設を維持拡大し、在宅対応にも取り組む案1は、今後10年20年を考えると、超重症児への対応力が求められていくが、医療人材の確保・育成は現実的に難しい。
- ・重心施設を廃止・縮小し在宅対応も行わない案3は、問題外である。
- ・方向性としては、在宅対応に転換する案2だが、その場合にもレスパイト等への対応として、人工呼吸器が必要となる。人工呼吸器対応は大病院の近くでないと難しいのが実情であり、さらなる工夫が必要である。
- ・重心ではなく、「医療的ケア」の考えのもと、県全体で重症児者をどうしていくか考えるべき。
- ・施設の規模は、レスパイトなどのニーズを把握する必要がある。

(4) その他

○当面のスケジュールについて

主に29年度のスケジュール(案)について事務局より説明がなされた。

○今後の進め方等

- ・今回の意見を反映して、施設関連イメージ図等や入所者数の全体の傾向を修正するとともに、報告書(案)作成についても随時進めていきたい。
- ・さらに、意見等があれば事務局に提出してもらいたい。